

連携医療機関のご紹介



秋本院長

うじな整形外科 スポーツ・リハビリ クリニック

〒734-0014 広島市南区宇品西3丁目
4-33 ウォンツ宇品西店
メディカルモール3階
電話 / 082-255-2555
院長 / 秋本 泰芳
診療科目 / 整形外科、
リハビリテーション科



メディカルモール3階にあります

○これまでの歩みについて 教えてください

私は南区の場町で生まれました。同地では現在「あきもと皮膚科リハビリ整形外科」として父と兄が医院を開設しています。

県病院とのつながりは、私が3歳時に単径ヘルニアの手術で入院したことが最初です。当時病院前にあったお好み焼き屋で、母親が買ってきてくれたタコ焼きがとてもうれしかったことを今も覚えています。

その後、大阪の大学へ進学し、卒後は初期研修を行った呉市を皮切りに、関西圏や北海道函館市の病院で約15年間、勤務医として勤めました。整形外科医としては特に外傷治療に力を入れ、年間200件以上の手術を執刀してきました。令和元年に広島に帰郷し、父の医院で5年間かかりつけ医として診療を行った後、令和6年8月に独立開業しました。

○日々の診療で大切にされていることは何ですか？

初診ではきちんと「触って」診察することを心掛けています。触診ですね。整形外科は触診でしかわからない所見が多いので、大切にしています。検査結果を詳しく説明することも大切で、特にMRIについては模型や図表を使いながら入念に行うようにしています。また、当院は子供さんの受診も多いのですが、なるべく子供さんに直接話しかけて本人から症状を聞くようにしています。その際、最

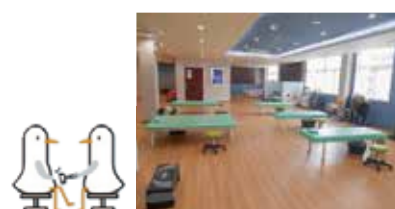
初に「痛い検査はしないよ」などの不安をとるための声掛けも忘れないようにしています。

○県病院はどんなところですか。

高度な検査・手術や専門的な診察・診断が必要な際は、まず県病院の専門医の先生方に相談しています。松尾主任部長をはじめ整形外科の先生方にはいつも快く紹介を受けていただいています。また形成外科や脳神経内科など他科の先生方にも大変助けていただいています。かかりつけ医として地域医療に貢献できるよう精進していきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



開放型 MRI



広いリハビリテーション室

【取材後記】

有難うございました。非常にエネルギーが湧きあがった語り口で、怪我等され不安な気持ちの患者さんも勇気づけられるのではないかと推察しました。今後とも当院との連携をどうぞよろしくお願いいたします。

今回は、令和6年8月に宇品西に開業された「うじな整形外科スポーツ・リハビリクリニック」秋本 泰芳 院長先生です。

県立広島病院広報誌

もみじ



県立広島病院 ☎082-254-1818 (代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

第198号
2025.8.1
発行



理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

教えて

Dr. 84

腹部超音波検査

内視鏡内科



内視鏡内科 部長
神野 大輔

◆腹部超音波検査とは？

みなさんは「エコー検査」や「超音波検査」という言葉を聞いたことはありますか？

「エコー検査」「超音波検査」は同じ意味で使われることが多いです。

超音波検査は、体の外から超音波を当てて、体の中を観察する検査です。一部胃や腸などに機械を入れて、超音波を当てる方法もあります。

病院では、心臓・血管、妊娠、関節、など様々な状況で使用される超音波検査ですが、今回は腹部（おなか）超音波検査について紹介します。

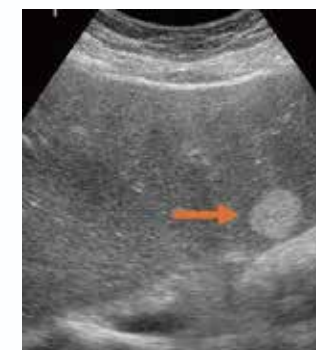


◆腹部超音波検査で何をみるの？

超音波で肝臓、胆嚢、脾臓などお腹の内臓を観察します。

内臓にできものがないか？内臓の形や大きさはどうか？などを評価します。

右は肝臓にできた腫瘍の画像です。おなかにプローブという機械を当てるだけで、このような画像が得られます。



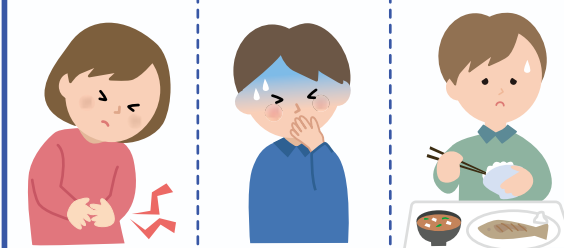
肝臓にできた腫瘍(矢印)

◆どういう時に検査をするの？

「お腹が痛い」「嘔吐する」などおなかの病気が疑われるときに、その原因となる異常が何なのか、内視鏡検査やCT検査などと組み合わせで行います。

また、「肝臓にしこりがある」など、もとも病気が見つかった場合に、病変が大きくなっていないか、など変化がないかをみる時にも行われることがあります。

自覚症状がある場合は診てもらいましょう



お腹が痛い 吐き気がする 食欲がない

◆腹部超音波検査の特徴は？

一番は検査を受ける人への影響が少ない点です。

検査で使用する超音波は放射線と違い人体に影響を与えません。

また、体の上からプローブを当てるだけなので内視鏡検査などと比較すると負担は少ないです。原則どのような人でも検査を受けることができます。

また、状況の変化に応じて繰り返し検査を行うことができます。

身体への負担が少なく安全に受けることができます



県立広島病院からのお知らせ

呼吸器センター症例検討会

開催日時 令和7年8月28日(木) 18:00 ~ 19:30
場所 中央棟2階 講堂
座長 副院長・呼吸器センター長 / 石川 暢久
講師 呼吸器内科部長 / 上野 沙弥香
呼吸器内科医員 / 田中 貴寛

対象 医療従事者
申込方法 二次元コードからお申込みください。
締切 8月21日
問合せ先 ☎082-254-1818 (代)
(経営企画課 / 望月)



七夕コンサートを開催しました！

令和7年7月7日(月) 14時から、当院の中央棟ロビー1階で、プロテウスアンサンブルの演奏による、七夕コンサートを開催いたしました！最後の演奏では、会場の皆さんと「七夕さま」を合唱し、楽しい七夕のひとときを過ごしていただきました。



秋本院長も一緒に歌いました！

腹部超音波検査の新しい技術、考え方について

◆超音波は空間分解能が高い

「超音波は見えにくい、分かりづらい」などと言われますが、実は超音波はきちんと画像を描出することができれば、とても細かいところまで観察が可能です。

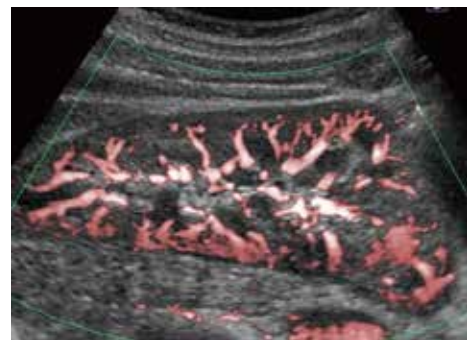
他の画像診断では描出困難な数mm大の胆嚢ポリープや、厚さ 1 cmに満たない消化管壁を層構造を区別して観察できるなどは、その代表例です。しかし、超音波の減衰や様々なアーチファクトにより、思うような画像が得られないこともあります。超音波機器の進歩によって、体表より深部の観察やアーチファクトの軽減など、より分かりやすい画像が得られるようになっていきます。



正常虫垂の描出も可能（矢印）で層構造も明瞭です

◆超音波による血流診断

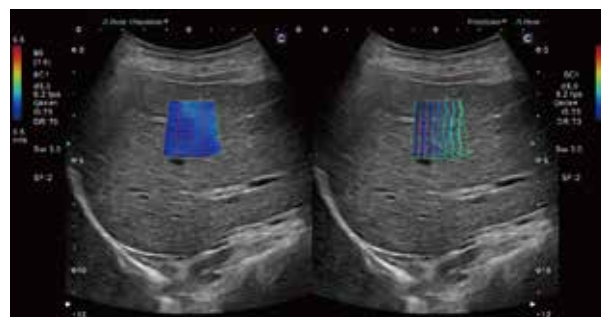
以前より超音波ではドプラを用いることで、非侵襲的に体内の血流情報を得ることができました。ただし、血流画像は分解能が通常の B モードよりも劣り、低速の血流表示が困難でした。経静脈的に投与する超音波造影剤の登場により、低流速の血流でもリアルタイムに描出することが可能となりました。最近では、超音波造影剤を用いなくても、かなり細かい血管まで描出することが可能です。



腎臓の細かい血管も造影剤なしで描出可能です。

◆エラストグラフィ

エラストグラフィは組織の硬さを調べる検査で、腹部領域では慢性肝疾患の患者に応用されています。超音波を用いて、患者に負担をかけることなく、肝臓の硬さを測定することが可能であり、同一患者で経過をみるのに有効です。



◆POCUS (Point-of-Care Ultrasound)

超音波検査は簡単に行える検査ですが、画像の描出や読影にはある程度の経験が必要となります。そのため、超音波検査をためらっている方もいらっしゃるかもしれません。

肝、胆嚢、脾臓、腎臓など腹部臓器を一通り観察していく従来の観察法に加えて、POCUS (Point of Care Ultrasound) という概念が広まっています。これは、超音波を専門としない医療従事者を対象として、「自分が関心のあるところだけを見る」観察法です。

例えば、「胆嚢炎が疑われるので、胆嚢が腫れていないか?」「腸閉塞が疑われるので、腸管拡張はないか?」「腹水はたまっていないか?」など、見たいところだけを評価するものです。これだとさほど修練を必要とせず短時間に施行できます。POCUS で異常が見つければ診療の次の段階へ進むこともスムーズになります。

超音波検査は、簡便で侵襲が少なく、リアルタイムに異常を見つけることができます。是非多くの方に超音波を活用していただきたいと思います。



外科医の独り言...no.164

— 初老の独り言 —

皆さん、ご無沙汰しています。3 か月ぶりかと思いますが、この間、原稿の締め切りに追われることがなかったので、楽をさせていただきましたが、その代わり病院では毎日色々なことが起こるので、決して楽ではありませんでした。

実はつい先ほど、この広報誌「もみじ」の編集者で、「外科医の独り言」のイラストも描いてもらっていた事務の H さんが、困り果てた顔をして私の前に現れました。浮かない顔の理由を聞くと、8 月号の「もみじ」に掲載するために依頼していた原稿がまだそろわないとのこと、今日は 7 月 18 日です。通常は 7 月 10 日には揃っていないと印刷に間に合いません。もう完全に締め切りを過ぎていているということで、この元外科医に再登板の依頼に来られたわけです。まあ、いつかはこんな時が来るとは思っていましたが、まさかこんなに早く来るとは予想していませんでした。とはいえ、「もみじの危機」ということで見過ごすわけにはいかないので、一肌脱ぐことに決めました。

では本題に入ります。7 月 5 日（日）に広島県医師会館で県民セミナーがありました。「医療の DX (デジタルトランスフォーメーション)」というタイトルのシンポジウムで、私がトップバッターでその基調講演をしました。そもそもこの講演の依頼があった時に、私は DX について詳しくない、というより素人なので（ここだけの話ですが、最初は DX をデラックスと勘違いしていました）、という理由で丁重にお断りしたのですが、高齢者の方にもわかりやすい講演会にするには素人が説明したほうが良い、というよくわからない理由に納得して？引き受けてしまいました。そのため DX とは何か？今なぜ医療に DX が必要なのか？という説明から入りました。

医療 DX とは、簡単に言えば、デジタル技術を駆使して、医療サービスをより質の高い、効率的なものにしていく取組なのですが、デジタル

とは何かという説明も入れました。最近のデジタル技術の進歩には目を見張るものがあり、また DX の進歩には、AI (人工知能) の活用は欠かせません。昭和のアナログ世代の私が説明して、本当に聴衆の皆さんにわかってもらえたかどうか自信がありませんが、実はシンポジウムのタイトルが、高齢者の皆さんの興味を引かなかったのと、講演会当日の酷暑のためか高齢の方の参加者は少なく若い方が多く、DX の素人の私が基調講演をする意味がなかったのでは…と思った次第です。

以前もこのコラムでお話したかもしれませんが、今は何でもかんでも AI です。わからないことがあればすぐにスマホに聞くと教えてもらえる、本当に便利になりました。なかなか筆が進まない時も生成系 AI ならすらすらと書きたい文章が出てきます。患者さんの症状や状況についてのいくつかの質問に回答すれば、可能性のある病気の候補が一瞬にして示され、必要な検査も指示してくれます。このように医療においても、AI 抜きにはこれからの劇的な進歩は望めません。

ただしここで一つ疑問があります。患者さんが、意図的に、あるいは意図せずに誤った回答をした場合、AI は正しい診断にたどり着くのでしょうか？一つくらいウソの回答をしても大丈夫かもしれませんが、AI は患者さんがウソをつくことを想定していません。たとえば患者さんが痛いと言えば痛いのです。痛みを私たち医療者も否定できません。AI のみならず私たち医療者も性善説をとっています。ただし、本当かなあ？と疑うことは時にあります。この初老の外科医は、これから先も AI のお世話にならず、昭和の外科医の勘を生かして診療することになるでしょう。



院長／板本 敏行

ご意見箱

発熱時の検査について

入院した際に、同室の患者さんが「熱がある」と言っていたが、検査を実施していなかった。インフルエンザ感染が蔓延していた時期で、不安とともに疑問に思えた。



貴重なご意見をありがとうございました。

この度は大変不安な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。発熱や症状のある患者さんについては、速やかに医師へ報告し、検査や対応を行っています。検査の実施結果は患者さんの個人情報に該当する為、同室の患者さんへはお伝えしておりません。何卒、ご理解いただきますよう、お願いいたします。